

①：「一般人に対する線量限度『1年につき 1000 マイクロ・シーベルト＝1 ミリ・シーベルト』は、特定の放射線源の使用に伴って国民一般に与える放射線のインパクトをここまで抑え込もうという〈約束（もしくは取り決め）〉であって、安全と非安全（安全でないものが即〈危険〉ということにはならない）の境界を示すものではない」

「放射線・放射能の場合には単位（「シーベルト」「ベクレル」等）に馴染みがないため、数量を示されても〈その意味するところ〉を理解できない人が多い」「判断の基準には日本国民が 1 年間に受けている放射線の総量の1人当たりの平均値である〈約4ミリ・シーベルト〉と〈一度に全身に浴び何の治療をも受けない〉ときに〈急性放射線症〉により死亡するに至るかもしれない値〈7シーベルト〉を使うことを推奨する」

（放射線安全フォーラム HP・3月21日より）

■■要するに、国民はバカだから、この程度の説明でよい、と言ってる？

それにしても4ミリ・シーベルトははじめて見ます。世界平均が2.4ミリ・シーベルト、日本では1.5ミリ・シーベルトが平均だったはずですよ。

②：「仮に（測定試料の一部に）基準越えが見つかったからと言って、すべて直ちに廃棄処分をしたり、指示すべきではない。わずかな放射性物質はすぐに消えてしまう。粉ミルクにしたりバターやチーズなどの乳製品にして、基準値を下回った時に〈食用〉に回せるものも多いかもしれないし、測定データの品質にも留意する必要がある」

（放射線安全フォーラム HP・3月31日より）

■■圧倒的に多くの食品が汚染されてしまえば、「現実的な考え方」かもしれないが、考え方の基本は〈被曝を避ける〉でなければならない。